活動報告

群馬県における細胞検査士主体の子宮頸がん検診 啓蒙活動（LOVE49 in Gunma）の実際と展望

LOVE49 Activity in Gunma: Report and Prospects for The Future

小野里香織¹⁾ 星川里美¹⁾ 栗原康哲¹⁾ 山岸 徹²⁾ 神山晴美³⁾ 土田 秀³⁾
福田利夫⁴⁾

Kaori ONOSATO¹⁾, Satomi HOSHIKAWA¹⁾, Yasunori KURIBARA¹⁾, Toru YAMAGISHI²⁾, Harumi KAMIYAMA³⁾,
Shigeru TSUCHIDA³⁾, Toshio FUKUDA⁴⁾

要 旨

目的：子宮頸がん撲滅を目指し、細胞検査士による予防・啓蒙活動を報告・考察する。

方法：オリジナルグッズ製作，“ぐんまちゃん”着ぐるみの借用，地域FM放送の利用，配布時の工夫，大学生への配布，の5項目である。

結果：啓蒙グッズ配布数が増加し，時間短縮，会員の負担減など効率化が図れた。

結論：継続的に正確な情報を提供し，女性自身が正確な知識を持つことが重要である。特に若年者への健康教育を重視する必要がある。

Abstract

INTRODUCTION: To eradicate uterine cervix cancer, we report LOVE49 activity in Gunma prefecture and considered activities to be focused on in the future.

METHODS: Activities included the creation of original goods and “Gunma-chan” costume, broadcast by local FM radio, plans for distribution, and distribution among college students.

RESULTS: Original goods were distributed more efficiently to young women than in previous years. These activities led to an increased number of goods distributed, shortening of the time for distribution and reducing the burden on members.

CONCLUSION: It is important that women themselves obtain correct knowledge and information to continuously improve the check-up rate. Health education for young people in particular is important.

Keywords：子宮頸がん（Cervical cancer），検診（Screening），若年女性（Young women），健康教育（Health Education）

はじめに

人口の約半数を占める女性の健康を守るとは，家族の健康ひいては国民全体の健康に直結する。そのため，検診が有効とされる「乳がん」および「子宮がん」を見逃すことはできない。特に「子宮頸がん」はその多くが予防可能であるにも関わらず，年間に約12,000人が罹患し，約3,500人が死亡している¹⁾。現在は先進

国の中で日本のみ20～30歳代の若年女性に増加している²⁾。

子宮頸がんはヒト乳頭腫ウイルス（human papilloma virus：HPV）感染との関連性が解明され，予防ワクチンが開発された。ワクチン接種と定期検診の併用が子宮頸がんの最良の予防策だが，本邦では重篤な副反応報道が社会問題となり，国からの接種勧奨が中

1) 群馬大学医学部附属病院病理部・病理診断科

2) 群馬県立心臓血管センター技術部臨床検査課

3) 群馬県立がんセンター病理検査課

4) 群馬大学大学院保健学研究科生体情報検査科学

著者連絡先：小野里香織 国立大学法人群馬大学医学部附属病院病理部・病理診断科 [〒371-8511 群馬県前橋市昭和町 3-39-15]

email: kk-sato@gunma-u.ac.jp

（受付日：2019年11月6日，採用日：2020年2月21日）

©2020 日本プライマリ・ケア連合学会

図 1

27 Cytotechnologists and students participated in “LOVE49 activity” in 2018.

The transition of original goods: pocket tissue (2014), can badges (2015-2017), A4 clear file (2018).

使用写真は利用許可を取得しています。

止されて6年が経過している³⁾。ワクチン接種が勧奨されない現在、予防啓発が最重要である。

群馬県細胞検査士会は、2018年4月現在で男性58名、女性75名、合計133名が所属し、子宮頸がん予防・啓発活動“LOVE49プロジェクト”に2012年より参加している。“LOVE49プロジェクト”は、2004年に発足した“認定NPO法人子宮頸がんを考える市民の会”が立ち上げた活動で、2009年に細胞検査士の協力を得て街頭活動が始まった⁴⁾。

本報告は、2018年度の4月9日(子宮の日)直近の週末に大型商業施設に来場した一般人約1,000人、医療系大学の学生約500名を対象とし、2018年度の啓蒙活動の工夫等を紹介し、細胞検査士による啓蒙活動の今後の展望および子宮頸がん検診率の向上に寄与するための課題を考察する。

方 法

活動内容・工夫は以下の5項目である。

(1) 群馬県細胞検査士会オリジナルグッズ製作

ゆるキャラ“ぐんまちゃん”のロゴ利用許諾を取得し、2014年はポケットティッシュ、2015～2017年は缶バッジ、2018年はA4サイズのクリアファイルを製作した。3,000枚で税込101,088円(1枚当たり33.7円)で製作した(図1)。

(2) “ぐんまちゃん”着ぐるみの借用

群馬県県民センターより着ぐるみを借用した。小柄な女性会員が着ぐるみを着用し、ぐんまちゃんの動きを模倣して広報活動を行った。

(3) 地域FM放送を利用した広報活動

「FMぐんま」の地域情報番組“街ネタぼすと”に情報提供し、番組内で紹介された。

(4) 会場での配布時の工夫

活動参加者を年齢・性別混合の3～4人グループに分け、大型商業施設の複数の出入口に配置して、パンフレットとクリアファイルを配布した。配布の際には、①「ぐんまちゃんのクリアファイル」を表向きにして

手渡す、②「子宮頸がん検診のキャンペーンです。」を強調しすぎない、③声がけは「持ち帰って読んでみてください。」程度にする、を心がけるよう周知した。①～③の工夫は、「私には関係ない」、「面倒くさい」、「時間がない」等の理由から、子宮頸がん検診を自身のこととして受け止められず⁵⁾、若年女性に配布グッズを受け取ってもらえない現状からの気づきである。とにかく持ち帰ってもらえるよう、来場者が親近感を持つ“ぐんまちゃん”を利用し、化粧品の試供品を渡すように笑顔で気軽に配布した(図1)。

(5) 大学生への配布

当院で臨地実習を受け入れている群馬県内の臨床検査技師養成課程の担当教員を通じて、学生に活動の趣旨を伝え、年度始めの健康教育の一環として、子宮の日前後の病理学講義時間での配布を依頼した。

結 果

2017年までの活動は、配布物にポケットティッシュや缶バッジを加える工夫であり、活動当初は配布数が500セットであったが、2018年度は各種工夫により配布数が約3倍に増加し、特に“ぐんまちゃん”の着ぐるみ、クリアファイル等の使用により、より多くの人々に啓発活動を紹介できた。また、配布時間が短縮でき、参加者の負担も軽減できた。クリアファイルは好評であり、一般人・学生から「非売品のぐんまちゃんが入手出来てうれしい。」、「かわいらしいデザインで普段使いができる。」等の反響があった。このファイルが日常生活で用いられることにより、周囲の人々へのさらなる周知が期待された。

考 察

女性のヘルスプロモーションで重要な点は、(1) safer sex, (2) screening, (3) no smoking, (4) vaccinationである⁶⁾。子宮頸がん予防には、このすべてが重要であるが、特にワクチンと検診で予防できることが特徴であり、予防ワクチンの接種勧奨が中止されている現在、ワクチン接種の再開および検診率の向上を図ることが急務である。一般女性967人を対象とした子宮頸がん検診に関する調査報告書によると、検診受診率が低い理由として、「時間がない」、「面倒である」、「費用がかかる」等が比較的多く、検診に関する“情報不足”や、子宮頸がんに関する“知識不足”に関連していると報告されている⁵⁾。検診やがんに関する情報・知識不足の原因は、本邦ではがん検診の教育が不十分であり、検診がどういうものであるか、どこに行った

ら受けられるのか、どれだけ有効なのかを知らないことにあり⁶⁾、学校教育過程での教育が不十分である上に、社会人ではさらに健康教育の機会を設けることが困難なためである。また、容易にアクセスできる検診環境の不備も理由として挙げられる。

細胞検査士が細胞診検査に従事し、その精度の維持・向上に努めていても、検診未受診の子宮頸がんの早期発見は不可能である。街頭での啓発活動は年に数回であり、その重要性の周知には限界がある。今後の細胞検査士による啓蒙活動の展望および課題は、これまでの細胞診業務の研鑽に加えて、現在の街頭活動の拡大、誰もが容易に情報にアクセスできる Social Networking Service(SNS)を利用した正しい情報の発信、若年女性が受診しやすい検診環境づくりや、がんとうがん検診に対する健康教育に細胞診専門職の立場で関わることである。この活動の最終目標は、子宮頸がんが過去の病気となるよう、啓発活動の必要がなくなる未来を築くことである。

認定NPO法人子宮頸がんを考える市民の会のホームページに次のメッセージがある。「子宮頸がんは、検診とワクチンによって予防できる唯一のがんという現実を知って、自分のこととして行動してもらいたい⁴⁾。我々の今後すべき活動のエッセンスはこれに尽きる。

謝 辞

啓発活動に参加された群馬県細胞検査士会会員、群馬大学医学部保健学科細胞検査士養成コースの皆様には感謝致します。

利益相反

筆者らは、開示すべき利益相反状態はありません。

文 献

- 1) Hori M, Matsuda T, Shibata A, et al. Cancer incidence and incidence rates in Japan in 2009: a study of 32 population-based cancer registries for the Monitoring of Cancer Incidence in Japan (MCIJ) project. Jpn J Clin Oncol. 2015; 45: 884-891.
- 2) 今野良, 山川洋光, 鈴木光明. 子宮頸がん検診の現況と問題点. 産婦人科治療. 2007; 94: 120-131.
- 3) Yuji K, Nakada H. Compensation programs after withdrawal of the recommendation for HPV vaccine in Japan. Hum Vaccin Immunother. 2016; 12: 1321-1324.
- 4) 認定NPO法人子宮頸がんを考える市民の会. 東京. [not revised; cited 1 October 2019]. Available from: <http://www.orangeclover.org/orangeclover/>

5) 子宮頸がんから女性を守る会の研究会. 子宮頸がん検診に対する調査報告書. 2008. [not revised; cited 1 October 2019]. Available from: <http://www.cczeropro.jp/kenshin/img/result.pdf>

6) 今野良. 子宮頸がん予防—世界で取り組む検診と HPV ワクチンの普及. 現代性教育研究ジャーナル. 2012 ; 18 : 1-6.